

ささやかな郷土資料館の感動

稲美町の場合

米花 稔（神戸大学名誉教授）

地域にはそれぞれ人びとのきびしい営みのつきかさね、歴史がある。その一部をかき取り、ふれることよって心がゆさぶられる。地方の歴史博物館でこのような体験をする。近年の例では鹿児島の新設県立の黎明館で、有史以前のシラス（火山灰）台地、今に続く桜島の噴煙など自然のきびしさ、江戸時代幕府の命による島津藩の木曾三川合流点の宝暦治水大

事業の犠牲、そして維新から西南の役に至るまでことなどの展示がそれであった。しかし時に小さな町のささやかな郷土資料館に足をふみいれて感動をうける。近く神戸に西接する稲美町の場合そうであった。

立派な体育館の隣でしゃれたしかしささやかな郷土資料館に一步入って目につくのは「水」のことである。ここは溜池の多いことでもわかるように丘つづきの古来水不足になやまされてきたところである。僅かに北辺近くを西に流れる草谷川などに沿って人びとは住み暮らしてきたようである。

寛延三年（一七四九）姫路藩全域の大一揆のきつかけのひとつが、この百姓伊左衛門であったことが示されている。陸奥白河の城主松平明矩が姫路に所替えされたからの増徴が水不足のこの村にはとりわけきびしかったことからであろう。

下って明治はじめ、ここでのわが国最初の国営葡萄園の試みも興味深く心をつつ。水不足のうえ、辛うじて生活を維持していた綿花

が紡績の発展に伴う輸入綿に押されて駄目になり、しかも明治九年の地租改正が重い負担となるなどの三重苦のなかで、時の加古郡長北条直正氏が国の施策に着目してこれを熱意をもって誘致することとなり、明治十三年、国営の葡萄園をこの地にひらき、ついで葡萄酒の醸造にまで至る。病虫害、私下問題などで数年にしてその姿を没したが、その後に対する実験的役割もふくめて記録されるべきものである。

さらに今に恩恵の続く疏水計画がある。江戸時代からの山田川引水の試みが、葡萄園の実験をきっかけに本格化し、国の援助による果の事業として手がけられはじめたのがこの頃である。横浜の上水道を設計したイギリス人、パーマー・ヘンリー・スペンサーの指導で、まず淡河川疏水づくりで御坂サイフォンというわが国最初の大工事を明治二十四年には完成し、本来の山田川疏水は大正のはじめに及ぶ。いづれにしても、地元の人びとの熱意は、明治早々この一僻村に農商務大輔品川弥二郎、大蔵卿松方正義、農商務卿西郷従道などの要人をこれらの仕事のため相ついで来村させている。きびしさの故の熱意か。ちよっとした展示にも心ひかれるのは自分の年齢のせいであろうか。

● 疏水

● 疏水事業の発展



資料館の中には疏水事業に関する展示が数多くある

21世紀のKOBЕを語る〈1〉

21世紀へ向けて神戸を
世界の流通基地に

中内 功（株式会社タイエー代表取締役会長兼社長）

二十一世紀は革命的変革の時代になるだろうとよく言われています。産業の仕組みが大きく変わり、新しい時代が到来するでしょう。神戸の産業構造も、かつての鉄鋼造船からファッション、ケミカルシューズ、洋菓子などへと推移し、生活そのものが変わっていくと思います。戦後すぐは、いわゆる「3C時代」といわれ、「もの」を追求した時代。それが「金」の追求、つまり高齢化社会を迎えての財テクブームがやって来ました。そして次に来るのが、「時間」を追求する時代。今、何が欲しいかという点、それは「時間」、余暇時間をどう人間らしく豊かに使うか、に関心が高まって来ています。だから神戸としては、楽しく豊かな余暇時間をクリエイトする都市空間を考えていかなければいけない。それが神戸の新しいあり方だと思えます。そこに人が集まり、知的交流が行われ、知的刺激があり、そこに住み働く人々がインテリジェンスをもつ都市。そこから様々なクリエイターが出て来る都市。そういう都市空間を神戸はどう創り出していくのか。これを考えないといけない。そうすれば新しいソフトのクリエイターや学者も神戸に集まって来るだろうし、バイオテクノロジーなどの新しい産業が神戸に興って

ると思います。今年、開港二二〇年を迎え、これまでの港神戸から情報都市神戸・インテリジェントシティ神戸を考えないといけないと思います。私どもでは来年、新神戸駅前に都市型ホテルをオープンします。そこでコンベンションを盛んに開き、世界から神戸に人を呼び込む。そのためにも神戸を楽しい街、面白い街、「知的興奮」のある街にしたいと思っています。

また来年四月には、「流通科学大学」を開設します。新しい時代は、流通学を考える時代になると思います。流通は、すなわち情報です。かつての大航海時代、世界的に文化・情報の交流が始まりました。その意味でも流通は、今後ますます重要になって来ると思います。

とくに神戸の場合、東南アジア諸国との流通という点を考えていかなければいけません。たとえば、われわれが使う必需品、衣類にしても、食料品にしても、そのかなりの部分を東南アジアから輸入しています。東南アジア諸国にとって、輸出で外貨を稼ぐことによって、国全体が潤い生活レベルが上がる。周辺諸国に産業を移すことでその国が豊かになり、相互の理解も深まります。当然、戦争もなくなります。流通の活性化は



「21世紀は流通の時代」と熱っぽく語る中内会長

世界平和への貢献にもなるわけです。

これからは軽工業品は東南アジア諸国に任せ、日本はバイオテクノロジーやハイテクノロジー関係をやる。その中心が京阪神であり、なかでもポートオーソリティをもつ神戸にならないといけないと思います。コンベンション（会議）があり、メッセ（見本市）がある。当然、世界から情報が集まる。もともと、神戸は外国人に対して開放的な町であり、彼らにとって一番住みやすい町なんです。「流通科学大学」でも積極的に外国人の受講生を受け入れたいと考えています。

一方、私どもではスポーツにも力を入れていきます。マラソン、サッカー、ラグビー、バレーボールなど、近隣諸国と交流を活発にやっています。ユニバーシアード神戸大会では世界中から若者が神戸に集まりました。今度はアジア大会をぜひ神戸に誘致したいですね。

最後に神戸商工会議所の関係では来春、ホテル機能をもった商工会議所会館が完成します。ここで異業種間の交流が活発に行われ、いわば「神戸・神戸端会議」の拠点になれば、と思っています。

21世紀のKOBЕを語る〈2〉

人脈ネットワークで

関西文化の振興を

陳舜臣〈作家〉

地方の時代と云われて久しいわけですが、今関西の文化を振り返ってみると、必ずしもその成果が上っているように思えません。単なる中央へのアンチテーゼとしてならともかく、もう一歩進んで関西を一つの文化圏と考えると、今一つもの足りない気がします。

その原因の一つは、関西の拠点である京都、大阪、神戸において、それぞれ個別の文化の営みはあっても、三点を繋ぐ連携プレイが見られないことです。神戸であれば、神戸だけの活性化を考えるのではなく、京阪神の中での自らの位置づけをまず明確にすべきではないでしょうか。私が参加している大阪の『関西大賞』は、「関西で新しい芸術の振興を」という趣旨で設けられたものですが、そういった関西全土を射程に入れた発想をもっと取り入れていくべきだと思います。

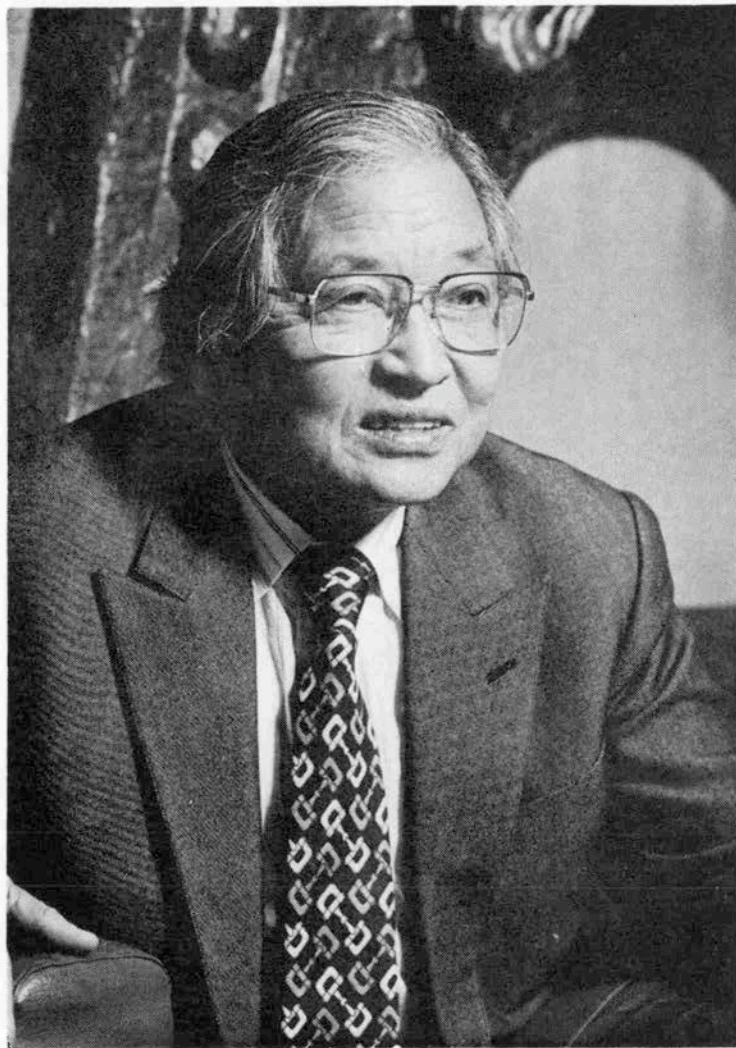
例えば神戸の街を考えると、同じ神戸でも六甲の北と南とではその風土の性格がまるで違う。それと同じ考え方で開発してしまったのでは、せっかくの街のキャラクターを壊してしまいます。それぞれの特色を生かした開発の仕方、街に陰影をつけて奥行きのある街作りをしたいですね。六甲トネルを越えると、そこには全然ちがう雰囲気

気を持った街が広がっている。それだけでも大きな魅力ではないでしょうか。それぞれのキャラクターを十分に発揮させた街作り、その考え方を今度は神戸だけではなく、京阪神の連携プレイによって関西という単位へ拡大していくことです。

そのための方法論として最も重要なことは、やはり人の交流ですね。文化は結局は人ですから、人の繋りを密にすることによって活性化されるわけです。特に神戸には街の持つ魅力に引かれて、国内外からさまざまな分野の人たちが大勢やってきます。港もありますし、最近では市内のあちこちでホテルの建設も進んでいます。そういったコンベンション機能を利用して、神戸と神戸ファンとも結びつけるパイプ作りを心がけるべきですね。それをもとに、さらに関西全土へと広がる人脈図をまとめることができれば、神戸にとっても関西にとっても貴重な財産になるはずですよ。もちろん今でもそういった人脈はありますが、さらに隠れた地下の人脈も掘り起こしながら、その網の目を密にしていくことです。それがすぐに役立つかどうかはわかりませんが、先のことを考えて、いざという時に知恵を借りられるブレーションバンクを作ることとをぜひ提案したいと思います。

そう考えると、関西の中での神戸の立場、役割がおのずと見えてくるはずです。神戸を中心とした人脈作り、そのためには、やはり神戸をさらに人を引きつける、魅力のある街にすることです。それも従来の行政主導の経済優先主義ではなく、民間主導によって文化の振興をはかること、つまり経済というハードな器作りから、その中へ入れるべき文化というソフト作りの段階へとステップアップすることです。もちろん行政の協力も必要ですが、街作りに必要なアイデアはやはり民間がリーダーとなって出して行くべきですね。

近ごろは神戸も「ファッション都市」「あるいは「スポーツ都市」などのキャッチフレーズのもとに、さまざまなイベントを企画し好評を博しています。これなどは正に神戸らしい素晴らしい文化活動ではないでしょうか。今後もういった活動によって人の輪を広げ、さらにその輪を関西全土へと広げていけば、地盤沈下した関西の文化をきつと浮上させることができるでしょう。さまざまな人たちが交流するキーステーションとして、神戸が関西文化のリーダーシップをとるべきだと思います。



「文化は人の繋りから」と語る陳舜臣さん

21世紀のK.O.B.E.を語る〈3〉

淡路島を21世紀の

神戸の“廻廊”に

原 清 ▲朝日放送株式会社代表取締役会長▽

神戸市は、来年、市制100年を迎えるわけですが、現在、神戸の街を離れて仕事をしていますが、私は神戸の街で生まれ育ったことを誇りにしており、心から祝福したいと思います。

神戸の街の良さは、一般的なことになってしましますが、やはり第一に、山と海の両方に近いことが挙げられます。そして第二に、大都会であるにもかかわらず、田園地帯をすぐ近くに抱えている。第三には、海水浴に適した海岸を持っていること。現代において、神戸のような大都会で、海水浴が出来るような海岸を持っている都市は、他には見られません。

さらに、特筆すべきことに、その間の交通網が完備されている。六甲山を通る何本ものトンネルによって、南北の交通は格段に便利になりました。そして東西の交通はと言うと、この狭い地域に道路は、2号線、43号線。鉄道は、阪神、阪急、国鉄、新幹線と、6つの大動脈があります。こういう交通至便な所は、日本のどこにもありません。

東西にも南北にも交通が完備されており、大都会と田園地帯のように、全く異なった世界が渾然一体となっている。都市の独自性として、こんなに完璧な独自性はないのでしょうか。

しかし、だからと言って、神戸が、その独自性に甘えていれば良いかと言いますと、決してそんなことはありません。神戸には、もっと国際都市として発展してもらわなくては。神戸は、それが十分に可能な潜在力を持っているのですから。

そのために、やらなくてはいけないことは、まだまだあります。

私は、行政に関しては、全くの素人ですが、そんな私が夢に描いているのが、まず、関西国際新空港が完成しましたら、空港と神戸の連係を密にする。

また、兵庫県が推進している「アジア・ポート構想」にも、しばしば出てきます。淡路の志筑港。志筑港は大阪湾で、最も水深が深いということですので、神戸港に入ることができない巨船を、志筑港に誘導する。淡路も、今建設中の、明石海峡大橋が完成しますと、神戸から陸続きになり、神戸の離れ座敷というよりも、神戸の回り廊下の一つといっても良く、神戸港と志筑港を有機的に結びつけることが可能でしょう。

航空機は確かに便利なものですが、輸送能力は船舶の比ではありません。しかも、これからは、ゆっくりと船の旅を楽しむながら、世界一周でも



「淡路島を21世紀の神戸の廻廊に」と語る原清会長

しようという人が増えてくるだろうと思います。岸壁と市街地とのアクセスが良くて、すぐに観光に出かけられる。すぐにホテルに入れる。こういうことが都市の貴重な要素になると思います。

そういった意味で、神戸と淡路との一体化は、神戸がその都市機能をフルに活用させる一つの方法だと思います。

21世紀は、情報集積能力の有無が、都市の運命を決定します。時代に取り残されないために、神戸には1500人以上収容能力のある、同時通訳が完備した国際会議場が必要です。

さらに、贅沢を言わせてもらえるなら、音楽や演劇の国際的な催しが出来るホールもあれば、なおさら良いのではないのでしょうか。

また、貝原兵庫県知事も、北摂地区の開発に力を入れるということですが、関西学院大学が、北摂に10万坪の敷地を購入したということですから、この際、国際学園都市を創って欲しい。

神戸が真に国際化するためには、そこで世界中の人々を集め、インターナショナルな勉強をして、世界的な視野を持った人材を育成する。そのため国際学部、芸術学部の創設をしてもらいたい。

21世紀のKOBEBEを語る〈4〉

大型集客産業による
神戸の街の活性化を

柏井 健一 〈神戸商工会議所副会頭・柏井紙業㈱社長〉

神戸は今年、開港120年を迎えます。しかし一口に120年といいますが、この間、海というものを一つのたよりに、人口2万人の神戸村が、140万人の近代都市によくこれだけ成長したと感心しています。明治・大正・昭和の初めごろまでの港の果たした役割が、大変大きかったのでしよう。それを基点に内外の文化が輸入され、当時、未来型産業といわれたものが、神戸を中心に全国に広がっていきました。しかし、ここ10年20年、その機能が港には、なくなっています。

「日本に通じる道は、全て神戸に集まらないといけない」と以前から言っていますが、事実、そういう時代がありました。鉄道管理局も神戸にあったし、東海道本線の基点も神戸でした。今は、神戸で停まらずに通過してしまいう新幹線がたくさんある。何故そうなったのか、それを考えると、海から空へ、つまり港から空港への移行が大きな原因だと思うのです。となると、今度の関西新国際空港とのアクセスが重要になってきます。うまく神戸と繋げていきたいですね。

ただ、先程言った新幹線の話じゃありませんが、停まってくれないからと文句を言っても始まらない。停まるだけの条件を、神戸につくらないとい

けません。こういった条件整備がこれからの課題でしょう。まずは、神戸の土地利用の再検討をすることです。ウォーターフロントをもっとうまく活用できないか。仮に、現在、川崎製鉄の葦合工場と神戸製鋼の脇浜工場の土地だけで、20万坪の土地があるわけです。今、日本の大都市の中で、神戸ぐらいいい場所がいい土地があるところはなと思います。三宮駅から10分か20分の場所に大きな土地がある。そういう土地をうまく利用することに、神戸の活性化が成されていくべきだと思います。

ではその土地を利用して何をするかということになるんですが、現存するコンベンション施設にしてもあまりにも規模が小さい。そこで、コンベンションも含んだ、大型の集客産業を神戸につくることに必要になってくるのです。これについては、まだ検討を始めたところで、具体的には言えないんですが、ドイツ・ネーランドのようなものを構想しています。ただ東京にあるものと同じようなものをやっても意味がないので、もっと科学技術開発を取り入れたものにしたいですね。

こういった大型集客産業が街の中でできる強みが神戸にはあります。ポテンシャルも何もない所



「関西財界の力を結集して大型集客産業を」と語る柏井神商議副会頭

では金額的にも相当かかりますが、神戸の場合、それがあるから、その点は大分楽だと思えます。国家的見地から見ても、雇用の問題から見ても真剣に考えないといけません。ただ県や市がリードするにはリスクが大きいです、本格的なデベロップを捜すか、関西財界の力をうまく結集させないと実現できないことです。

大型集客産業といいますが、ポートピア'81やユニバなどの短期間で終わってしまうイベントではなく、永久に続くものをやらないといけません。そうすれば必ず人は来るし、ファッショナ

どの第三次産業も栄えてくる。自ずと新幹線は停まるし、必然的に需要がでてくれば、自然の理として、神戸空港ももう一度、見直されてくるでしょう。

神戸商工会議所も来年の創立一一〇周年に向けて、ポートアイランドに新会館を、今年3月着工、昭和63年10月完成を目指してやっています。このことを一つの導火線として、21世紀への神戸の街づくりについて展望していきたいと思うのです。

第16回
月刊神戸っ子
ブルーメール賞

★ある程度の年齢になってから

書き始める新人が多い

島 同人誌の最近の作品傾向ですが、書くのが上手い人が多くなってきましたね。見様見真似でも書いている内にサマになってくるんですが、それだけじゃ、ちよつとモノ足りない気がしますね。

川端 同人誌で目立った動きをしているところは、やはり、きっちり発刊日を守っているところですね。「大阪文学」は別格として、「アマゾン」「バイキング」等は古くから守っていますね。

島 そういった意味で「ひのき」は良くやっていますね。季刊で、キチッと出ている。

川端 例えば「水晶群」は、毎月会報を出して、その上読書会をして、年一回は必ず出す。それぞれ無理のない形でやって行つて。それが本当じゃないかと思えます。杜山 文章がいくら上手くなつても、小説は別ですから。

《文学部門》
選考座談会

母との葛藤を描いた 山西史子へ

川端 ただ井の中の蛙では困りますね。同人誌以外の世界にも目を向けてもらいたい。

島 今年のブルーメール賞候補にも何人か挙がっていますが、ある程度の年齢になってから書き始め

た人が多いですね。

杜山 それでも、長い年月をかけて地道にやって来た人もいますよ。門田露。本気で取り組んでる人です。

川端 書き始めてから数年、というのを新人として考えたいですね。山西史子は、連作で「母との葛藤」を書いている。まだ書き始めて3年位ですが。

島 この人は叙情が、サバサバとして切り落とされていて、これから始まると思いますね。

杜山 説明せずに会話で状況を知らせる力量はたいしたものです。私は、新人賞は、未来が約束できる人ではないといけないと思うんですよ。

島 こやませいも長く神戸製鋼の同人誌「七曜」で書いていて、身に起こる不運を書くことによつて昇華して行く。

川端 植本寛は、「芸芸淡路」の同人ですな。

● 選考委員 ●



杜山 悠
＜作家＞



島京子
＜作家＞



川端柳太郎
＜神戸大学教授＞

島 植本寛は、先年、厄年の儀式で大変な目にあった。淡路島では大変なお金がかかるので、それを小説にしたんですが、それで表現力が豊かになった。同じ「文芸淡路」の発行人である北原文雄も長い間、努力して書き続けています。

★小説に内在する力を感じる山西 作品

川端 作品の内容だけを考えれば、やはり北原文雄でしょうが、20歳の頃から書き続けているのに、今さら新人賞もないでしょう。

杜山 私は山西さんがいいと思いますよ。作者対人間という関係の中で、一番適確にかみとって、変に注釈をつけないで書ききった

ことを感じる。作品の基盤にすごく骨太なものを感じる。

島 会話部分なんかは、ちょっと冗漫ですね。もう少し、整理してもらわないと。

杜山 確かに北原文雄はいいと思うんですが、やはり今さら、という感がある。

島 門田露は、まだまだ上手くありませんよ。

川端 植本寛は、何か底が浅い感じがする。もう少し、人間の本質に迫って欲しいですね。そういった意味で、こやませいも、もう少し思い入れをして書いて欲しい。

杜山 現時点が未来かということで考えると、現時点では、やはり北原文雄ですが、ブルーメール賞ということを見ると、私は山西

さんを押しします。

川端 私は、今まであまり知られていなかった心の営みをえぐりだしていることを買いたいですね。

島 ただ、お母さんのことを書いて終った、じゃ困りますけれど。

杜山 それは大丈夫でしょう。この人には筆力が感じられますから。

川端 それでは、今年は山西史子ということですね。

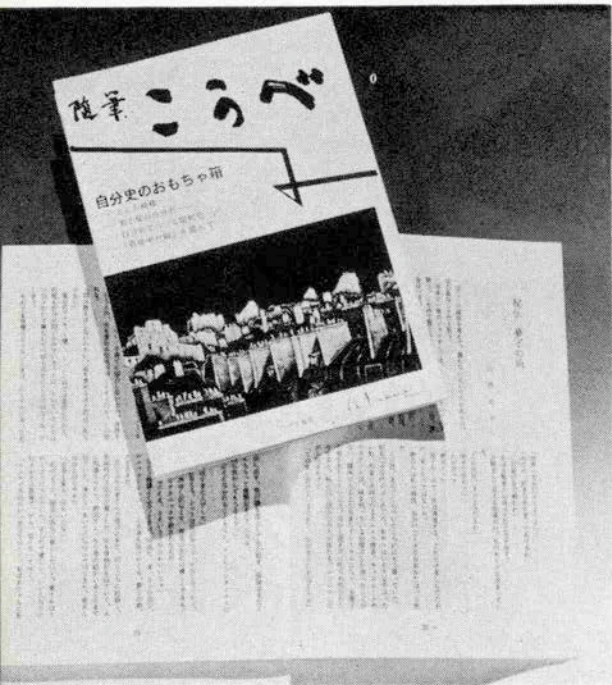
杜山 賛成です。北原文雄には、神戸文学賞に挑戦してもらいたいですね。

島 ブルーメール賞は出発点ですから。

△文中敬称略▽

●受賞者メモリアル

- | | | |
|----------|---------|----|
| 1. 中村隆 | 9. 梅村光 | 明 |
| 2. 鄭承博 | 10. 吉保知 | 佐 |
| 3. 小泉八重子 | 11. 季村敏 | 夫 |
| 4. 福元早夫 | 12. 福岡勝 | 利 |
| 5. 三宅武 | 13. 時里二 | 郎 |
| 6. 秋吉好 | 14. 松尾美 | 恵子 |
| 7. 江頭子 | 15. 武田信 | 明 |
| 8. 桜井利枝 | | |



山西史子同人「随筆ころべ」

第16回
月刊神戸っ子
ブルーメール賞

★評価したいプロデューサー役

柴田 今年は全般的にめだった活躍した人が少ない年だった。

小石 まず若手で田中敬子(ピアノ)、ドンナホールで演った小倉

直子(ピアノ)、垣花洋子(声楽)。出谷 ドンナホールで演る人はだ

いたい新人が多いみたいだね。

小石 森川和子、青井彰(ピアノ)、木田雅子、片山さと子(声楽)。

柴田 トラヴィータを演った濱崎加代子もいる。変わったところ

では伊丹の三輪長雄。もともと大阪交響楽団のヴィオラ奏者の人だ

けど、現在は伊丹市民オペラのプロデューサー役で頑張っている。

灘井誠はオペラ河童で健闘している。

小石 作曲では徳永秀則と中西覚

「たにしの会」かな。徳永はペガ

ホールで中西は文化ホールで成果

を発表していた。

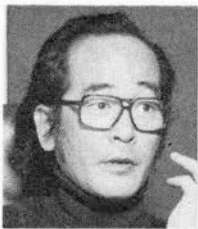
出谷 前回までの受賞者のメンバーを考えると、全くの新人は除い

《音楽部門》
選考座談会

日本の心を伝える 中西覚へ

たほうがいいでしょうね。灘ライオンズクラブ音楽賞を受賞し、リサイタルで「美しき水車小屋の娘」を歌った畑儀文もできは良かったがその意味から考えると、ブルーメール賞にはまだ早い気がす

● 選考委員 ●



出谷 啓
<音楽評論家>



小石 忠男
<音楽評論家>



柴田 仁
<音楽評論家>

る。

小石 彼は大阪の「咲くやこの花賞」も受けてるし。賞の性格上該当者とは言いがたい。

出谷 同様に岩崎宇紀、右近蒸子(ピアノ)も、将来に期待すべき候補者といえる。

小石 二人とも充分に活躍はしているがまだ若すぎる。

柴田 マンドリンの相沢睦子も随分若い。

出谷 こうして振り返ってみると「帯に短かし、たすきに長し」やな(笑)。ただ演奏の質を云々するばかりでなく、音楽の運動という点に注目することも提唱したい。神戸コンサート協会の中筋栄一。地元に着してマネージメント業を継続してきた功績は大きい。アーティストにとっても頼りになるし。将来的に評価していく方向にしたいね。

小石 県民小劇場で「KCAファミリーコンサート」を企画してい

る鬼塚正勝。既に10年目、27回を数えています。

★目立ったグループの活躍

小石 オペラグループ、アラ・デイ・コウベはどうか。

柴田 プレヒトの芝居を翻案した「四川善女」を演っていたが、あれは林光の仕事として評価されてしまう。

アラ・デイ・コウベの中から抜きん出る人が現われたら楽しみみだけ。昔は林光のもとで育った新田英開が中心メンバーでやっていたがね。



61・9・17 中西覚管弦楽作品展

小石 最近メンバーが一定していないみたいだし。他にグループとして「たにしの会」が継続的に作曲活動を発表しているが、内容的に質の粒が揃っていないことが残念だ。今後は会として向上させてほしい。

柴田 三室堯（声楽）は努力家の人で、今までの積み重ねは充分認められるが、今回のリサイタルはよくなかった。

出谷 ピアノの添田孝。延原武春のテレマン室内管弦楽団との協演や豊中アクアホールでのリサイタル

ルなどいい演奏をしていた。
★作品の充実度と地元への貢献が大きい中西覚に

小石 確かに実績はかなりあるんだが。実績からいうと作曲の中西、徳永も地道に積み重ねている人。

柴田 というより大ベテランと言ったほうが適切（笑）。

小石 中西の「昭和萬葉集」はよかったが、ピアノコンチェルトは整理の余地があるんじゃないかと思う。

柴田 「昭和萬葉集」はピアノ伴奏をオーケストラに改作したもので、聞くたびに感動的な作品だね。小石 それに神戸での演奏回数も多いし、山手高校の校長として後継者育成にも力を注いでいる。

出谷 音楽普及という点に着目してもいいね。
小石 地元への貢献度、「昭和萬葉集」の成果、「たにしの会」のまとめ役といった活動内容を考えると今年は中西覚に決定しよう。

△文中敬称略▽

●受賞者メモリアル

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 田原 富子 | 9. 山内 鈴子 |
| 2. 矢野 一郎 | 10. 松本 幸三 |
| 3. 上月 倫子 | 11. 伊藤 和世 |
| 4. 今岡 頼子 | 12. 井上 光夫 |
| 5. 小石 忠男 | 13. 末広 栄 |
| 6. 中村 隆 | 14. 安芸 武春 |
| 7. 関 晴子 | 15. 延原 揮 |
| 8. 坂本 環 | |

第16回
月刊神戸っ子
ブルーメール賞

★植松奎二論で白熱

増田 昨年の安井賞では地元勢の入選者が3人出ました。赤松玉女と松原政祐、田川絵里ですが、中でも行動美術の松原は最後まで大賞を争いましたね。それも一昨年に続いて連続2回です。それから、染色出身の川崎晃一や京都芸大の正延敏、本誌一月号に出た塚秋淳。それから、須磨離宮現代彫刻展で三重県立美術館賞を受賞した二紀会の梶滋なども頑張ってます。

草野 僕もいろいろ個展を見て回ったんですが、目に止ったのは佐野弘徹、犬童徹、松下元夫、椿昇、初田寿、南みほ、藤本元美、神野立生。そして一昨年安井賞を受賞した伊藤弘之。それから植松奎二。この人はずっと外国で暮らしてたんですが最近西宮に居を置きましたね。彼なんかは特に注目株ですよ。

赤根 僕は岩見健二なんかも押したいですが、あえて一人というな

《美術部門》
選考座談会

安井賞連続大賞候補の 松原政祐へ

ら杉山知子ですね。なにしろ、あのワイズマンコレクションに入ってたんですから。

増田 まあ、絵画なら松原、田川、赤松。立体なら梶ですね。なんといっても難宮彫刻展で初出品初入

● 選 考 委 員 ●



草野 拓郎
＜神戸新聞学芸部＞



増田 洋
＜兵庫県立近代美術館次長＞



赤根 和生
＜美術評論家＞

賞は凄い。植松は今さらBM賞っていう感じでもない。ヨーロッパであまりに高い評価を受けてますからね。

草野 新人賞じゃないんですよ。

赤根 でも普段日の目を見ない人の方がBM賞らしい。

草野 今まで彼が受賞していないのが不思議ですよ。

増田 彼はずっと日本にいなかったですからね。例えば20周年記念賞なんかの時に取っておいてはどうですか。まあ、タイミングよく個展でもやってくれればの話です。

それから彼は海外での仕事の方がいいもの作ってるんですよ。日本ではまだまだ本領発揮とまではいかない。

草野 そんなことはない。本人も満足してましたし。

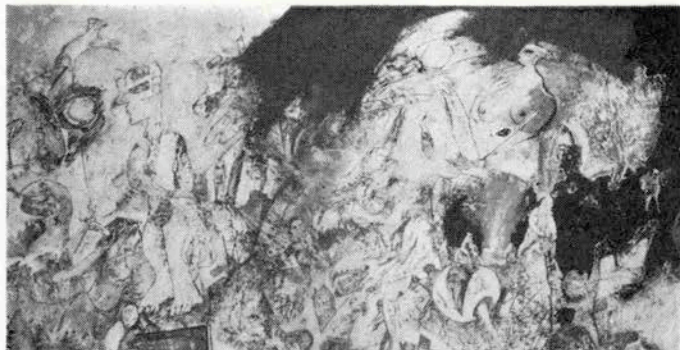
増田 個々の作品はいいんですが不在が多いから全体の構成は人にやらせてるんです。彼の作品の面

白さはインスタレーション的な空間構成にあるわけですから、彼自身がやらないとだめなんですよ。赤根 まあ、良い悪いの問題ではなく、日本ではスケールの限界があるんですよ。それをそのまま彼への評価にしちや気の毒だ。一応、田川、松原、杉山に絞ってみてはどうですか。植松は今回は別格ということにしましょう。

★梶滋か松原政祐か

赤丸急上昇組の対決

草野 岩見と伊藤も加えて下さい
赤根 それなら赤松、杉山も。



<上>「生きるものたち『騒乱』」(’86年F80号) <下>松原政祐氏

増田 じゃあ今回はお嬢さん、パワ
ーでいきますか(笑)。

赤根 その二人はまだ若いですが
梶は今回以外ないでしょう。

増田 伊藤はオリジナリティーの
点で伸び悩んでますよ。

赤根 そう、ユニークさに欠ける

草野 いや、彼は一つの世界を掘

り下げていくタイプなんです。彼

には孤独や寂寥感をつきつめてい

く厳しさがあります。

赤根 それがどうも絵の中で表現

しきれない。

増田 絵としてのレベルは高いん

ですが、新しいものにトライする
チャレンジ精神がない。

草野 自分のテーマの中でやらな
きゃならないという制約があるか
ら難しい。むしろテーマを変えた
方が楽ですよ。

赤根 そろそろまとめましょう。

増田 僕は梶、杉山、松原なら文

句はない。

赤根 杉山はまだ今後があるとい

うことで、とりあえず今回は梶と

松原のどちらかでどうでしょう。

増田 梶は須磨難宮現代彫刻展入

賞、松原は安井賞で連続二回大賞

候補。実績の点でも十分資格はあ

る。

草野 そうですね。それでは投票
で決めましょうか。

(投票)

増田 二対一で松原ですね。今回
のブルーメール賞美術部門は松原
に決定しましょう。

△文中敬称略▽

●受賞者メモリアル

1. 山	口	牧	生	9.	櫻	<造形>	忠
2. 丸	本	造	耕	10.	松	<武>	判
3. 小	西	保	文	11.	木	<通>	代
4. 藤	原	向	意	12.	宮	<豊>	治
5. 斎	藤	版	智	13.	藤	<志>	保
6. 鄭	平	相	和	14.	武	<則>	明
7. 山	洋	文	彦	15.	石	<晴>	久
8. 福	尾	真	治			<平>	
		<造形>					

第16回
月刊神戸っ子
ブルーメール賞

《舞台芸術部門》
選考座談会

神戸の笑いの文化を支える 楠本喬章へ

★実力派並ぶ各舞台

名生 劇団四紀会が30年記念で、相当な頑張りを見せましたね。

岡田 四紀会は皆で創るアンサンブル的劇団。その中で挙げるなら仲比呂志ですね。

佐野 30回記念で劇団神戸は「天守物語」をやりましたよ。

岡田 客員の榊原大介の演技は、あの臭みが面白さとして生きている。

佐野 道化座の須永克彦が、一人芝居「かん・かん人生」で見せた説得力のある演技が評判でした。

岡田 従来の構えが取れ、ドラマチックな演出も効いている。

名生 公演を重ねることに自信をつけていますね。

岡田 東灘に稽古場を移した森もり子の劇団青い森の「桃中軒雲右衛門」は面白かった。劇団のカラーが定着して来たようです。

名生 県民小劇場を拠点に活動を続ける神戸親子劇場は、地味なが

らよくやっています。教育的意義も高い。

佐野 寄席の方はいかがでしょう。

名生 少し性格は違うかもしれませんが、笑クリエイト社楠本喬章

● 選 考 委 員 ●



名生 昭雄
〈兵庫県立宝塚北高校教頭〉



岡田 美代
〈演出家〉



佐野 漣 箕
〈評論家〉

がもとまち寄席恋雅亭100回記念で「きろくのきろく」という本を出しました。柳笑亭以来、神戸の寄席をずっと支えて来た人ですよ。

岡田 陰の力で、シアターボックスの佐本進の功績も挙げたいですね。劇場の他、琵琶や、ヴァイオリン演奏家の後援会長になったりオリエント協会も手がけている。

名生 ご夫人の陰の力が大きいですよ。

岡田 實川延若後援会の神戸井筒会が12年目を迎えます。続けてきた努力は、大したものですよ。

佐野 中村扇雀の近松座の活躍も頼もしい。

名生 成駒家一門でできるというのが強味でしょうね。

佐野 近松座、井筒会、両者共に頑張っているって欲しいですね。

岡田 神戸文化ホールの歌舞伎鑑賞教室は、高校生のためのという事で始まったが、神戸の文化向上に大きな役割を果たしています。



もとまち寄席恋雅亭100回記念で楠本喬章さんが出版した「きろくのきろく」

す。

名生 松井一郎の力が大きい。今では二府四県で開かれている。

岡田 人間国宝片岡仁左衛門自ら率先しての教室というのも、嬉しいことです。

佐野 日本舞踊で大きな動きは、花柳芳一若が師籍30周年を迎えたことでしょう。

名生 圭柳会の花柳芳主次は25年でした。

佐野 神戸出身の仙田寿豊が国立文楽劇場でリサイタルを開いた。

二枚扇を使った「鶯娘」は特に素晴らしいです。

名生 去年の受賞者松本尚時は、力をつけましたね。

岡田 「三津山」では特に素晴らしい舞いを見せましたよ。

佐野 大阪になりますが、吉村雄輝夫の「善知鳥」は最高でした。

彼は技術を持っています。それから、林恵介が花柳吉金吾の舞台で見せた絶妙の照明に注目したいですね。

岡田 上甲裕久は振付と踊りの才人ですね。

佐野 モダンバレエですが、「妖」の公演では能楽堂という制約の中で、工夫された踊りは実に見応えがあった。

名生 貞松融バレエ団の男性団員を集める力はすごい。訓練も行届いて優秀だ。

岡田 北朝鮮公演もやったし。佐野 今岡頌子バレエ団は文化庁芸術祭に、東京青山草月ホールで「マリン・スノー」等踊って、注目を集めた。

★舞台裏の功労者楠本喬章に

佐野 それでは、少し絞って見ると須永克彦、上甲裕久、それに楠本喬章というあたりを残しましょうか

名生 いいですね。須永はNHK「都の風」にも出演し、まだこれからチャンスがある。楠本は100回目、本も完成した。

岡田 上甲裕久は一人立ちが始まったばかり。次回を狙ってもらいましょう。

名生 神戸の文化の土壌を育てる上で努力を続ける人に贈るといっても、大事なことです。今回は楠本喬章に贈ってはどうでしょう。

岡田 彼の努力には感服します。佐野 コツコツと積み上げて来た功績に拍手を贈りましょう。

△文中敬称略▽

●受賞メモリアル

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 花柳芳恵一子
＜邦舞家＞ | 8 藤井 徳三
＜能楽師＞ |
| 2 若柳吉由二
＜邦舞家＞ | 9 海野 光子
＜仮名手・庵歌・舞伎＞ |
| 3 吉井 順一
＜能楽師＞ | 10 コメディ・ド・演劇
＜フーゲツ子＞ |
| 4 花柳芳五三郎
＜邦舞家＞ | 11 加藤きん子
＜モダンダンサー＞ |
| 5 花柳 吉叟
＜邦舞家＞ | 12 藤田 佳代
＜舞踊家＞ |
| 6 藤間緑寿郎
＜邦舞家＞ | 13 花柳五三輔
＜邦舞家＞ |
| 7 尾上 菊見
＜邦舞家＞ | 14 白羽 弥仁
＜映画監督＞ |
| | 15 松本 尚時
＜邦舞家＞ |

第16回

月刊神戸っ子
ブルーメール賞

★バワフルなドレメの男性群

小泉 福富先生、一月十八日に行われた「合同ファッションフェア」は超満員で盛況でした。おめでとございます。

福富 今年はずちの創立五〇周年に当り、学生達にも楽しみを与えようと、ファッションフェアの他に、学内のデザインコンテストも行ったのです。これが意外に好評でした。かえて学内だけの方が、お互い競争意識は湧くし皆はりきって制作してくれました。

藤本 その中でも男子学生達の活躍が目立っていました。舞台の上で飛んだり跳ねたり……。とても楽しく拝見させて頂きました。全部で何人いるんですか？

福富 十人程です。最近思うんですが、女子学生はせっかいいものを持っているのに、心の隅に「いざとなったら嫁に行けばいい」という気持ちがあるのか完成する人は少ないですね。男性はその点

● 選 考 委 員 ●



小泉 美喜子
〈本誌副編集長〉



藤本 ハルミ
〈デザイナー〉



福富 芳美
〈神戸ドレスメーカー学院々長〉



森本 泰好
〈神戸地下街輿専務〉

望月の書、くらしの書の

《ファッション部門》
選考座談会

生活がかかっているのか(笑)エネルギーギッシュで、意欲的な人が多いですよ。

小泉 そういう意味では、主婦でありながら風月堂相談役の吉川冬季子の活躍は見逃せません。

森本 お菓子というのもファッションに入りますからね。昨年大丸百貨店で開かれた「源氏の由可里」は、新しい感覚が入った和菓子で話題を呼びました。

小泉 ただ、お菓子作りの様子と源氏物語を重ねて作られた映画は一昨年、国際産業映画祭で三位をとっていますので……。

ワールド観のデザイナーで、初の女性重役ということで話題を呼んだ藤井淑子、「夢を着る」というテーマでショーを開いた藤本ハルミ、学校でショーやパーティーを開いた米谷玲子、木下真珠の山本妙とのジョイントショーを開いた大里最世子、一昨年にひき続きショーを開いた藤井美智子、あと個

人で活躍が目立った方は？

福富 アートフラワー作家の天野剛子がなかなかいいものを持ってると思います。素材にちりめんやしほりなど、日本古来のものを使ったなかなかユニークな作品ですよ。今年あたりまた個展を開いてほしいですね。それに望月美佐。昨年春に行われた「文字を着る」というユニークなショーを開きましたね。

藤本 グループでは、去年の神戸ファッションショーで、真珠のメーカールとタイアップして頑張ったKFC。オートクチュールさが良く出ていました。

小泉 最近ユニークな活動をしているなどと思うのは着物関係のグループ。「神戸呉服専門店会」や神



戸と京都の呉服店「グループ風」が、スケールの大きいショーを開きました。あと染色家の白石弘子が「兵庫県民芸協会」のまとめ役として力をつけてきています。

★ヤングが街づくりのリーダーになって来ている

森本 最近トアロードの西側、トアウエストが話題ですね。中高生達が喜ぶ個性的な店が多いとか。北野町は東京志向の店が主だそう

だけど、それとは違う落ちついたユニークさが売り物らしいです。

小泉 そのトアウエストができたあと元町浜側、旧居留地界限がおもしろくなってきましたよ。大興ビル1Fの突撃洋服店なんかも、若い人がオーナーで、お客さんも若い人達がほとんどだそうです。



’61年6月に行われたファッションショー「文字を着る」より

森本 トアウエストにしても、大興ビルにしても経営者のぬくもりが感じられる店が注目をあびてきているようです。

★くらしの中に動の書をとりに入れた望月美佐に

福富 「文字を着る」というテーマで、動の書をくらしの中にとり入れたことをファッションとしてとらえるならば、望月美佐の業績は評価したいですね。

藤本 彼女の、着物に動の書でパツパツと速急に書く、あの特技は実に見事です。出来上がった着物ももちろんそうですが、パツと着物やネクタイに書く、そのパランスを私は評価したいと思います。小泉 着物だけでなく小物や壁面まさに生活全般にわたって文字を生かされているようです。

森本 文字とくらしの統合という点で、一つの世界を作りあげたといえる望月美佐に決定しましょう

△文中敬称略▽

●受賞者メモリアル

1. 藤本ハルミ <服飾デザイナー>
2. 米田 博司
<神戸市心身障害福祉センター>
3. 市野木ハチ子 <ニットデザイナー>
4. KJTC
<コウベジュニアテラーズクラブ>
5. 太田タマコ <アートフラワー>
6. KFS <コウベファッションソサエティ>
7. 「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム <パール>
8. 神戸市家具青年部会 <家具>
9. KFM <コウベファッションモディスト>